１．発表者氏名　相馬　涼子、渋谷　悟

２．学校名　青森県立青森若葉養護学校

３．発表テーマ　病弱特別支援学校における「わかる、できる授業」の再構築

４．学校概要

本校は、小、中、高等部を設置する全校児童生徒 25 名（H27.5.1 現在）の小規模校である。精神疾患等のある児童生徒が約８割と近年増加傾向にあり、また、約半数が発達障害を併せ有している。治療のための欠席や心理的な不安定等による学習空白、障害等による学習の積み重ねの難しさから、学年相応の学力が定着している児童生徒が少なく、学校経営方針の重点目標の一つに、「授業力の向上、わかる・できる授業の充実」を掲げ、個々の学習状況や病状に応じた個別の配慮を行いながら教科指導を行っている。

５．発表概要

本校は、過年度の校内研究成果の検証と課題の解決に向けた取組を行う目的で、『病弱特別支援学校における「わかる、できる授業」の再構築』をテーマに、26、27 年度の２か年の校内研究に取り組んでいる。本発表では、「わかる、できる授業」を「児童生徒の知的欲求や探究心が満たされることで得られる楽しさを味わうことができる授業」と定義して展開した１年次の取組と課題、今後の方向性について述べる。実施にあたり、研究グループを図１のように組織し、チームＡが研究の土台となる児童生徒へのアンケート調査を行い、整理した結果をチームＢ，Ｃが実際の授業研究に反映させていくことにした。

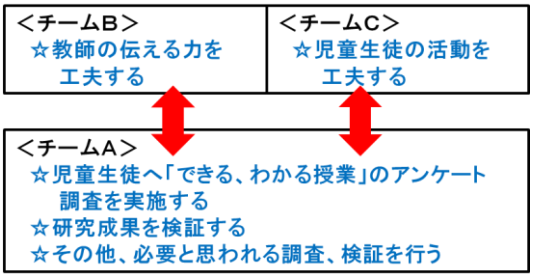

図１　校内研究の組織図

＜チームＡ＞

児童生徒が授業で感じる困難さや求める授業を把握する目的で、全児童生徒に「わかる、できる授業アンケート」を実施し、結果を整理した。また、過年度の研究成果である若葉スタンダード（本校における授業のＵＤ化）等について、教員を対象としたアンケートを実施し、問題点の把握や提案を行った。

＜チームＢ＞

児童生徒への伝え方で工夫していることについての教員アンケートを実施し、ＩＣＴ機器の使用目的を明確にした授業及び板書の工夫について授業実践を行った。

＜チームＣ＞

一斉授業や複式的な授業等様々な学習形態における困難と現在の支援について、及び児童生徒の効果的なＩＣＴ機器の使用方法や活用場面についての教員アンケートを実施し、導かれた改善点に沿い、授業実践を行った。

６．成果と課題

チームＡが児童生徒に実施したアンケートから、①学びやすく過ごしやすい学習環境の設定、②安心して参加できる指示、説明、発問の配慮、③理解を促す情報伝達の工夫の３点について、望ましい授業の条件や要素をまとめることができた。授業実践を行ったチームＢ，Ｃでは、「授業参観シート」を作成したことで、観点を絞った授業参観や協議が行われるようになり、それぞれのグループが考える「わかる、できる授業の工夫」が整理されてきている。一方で、チームＢでは「ＩＣＴ機器の効果的な使用や教師の熟練性」、チームＣでは「一斉指導の授業における書字速度の差への対応」や「複式的な授業の展開の工夫」が課題として上げられ、今年度の取組で課題解決に向けた授業改善を目指している。